

宇都宮氏家中内における芳賀氏の位置と基盤

栃木県立文書館 荒川善夫

はじめに

戦国時代 ①始まり：高校の教科書など
⇒応仁の乱(応仁・文明の乱)。
応仁元年=1467年～11年間、舞台：京都。
※明応の政変(明応2=1493年)説もあり。



〔真如堂縁起絵巻〕
〔京都市真正極楽寺所蔵〕

(左側：西軍山名方) (右側：東軍細川方)

◎東国

・享徳の乱(享徳3年=1454年～文明14年=1482年)
約30年に及ぶ内紛。

・古河公方足利成氏vs関東管領上杉氏=室町将軍

↓
(古利根川を挟み
対立・抗争)



②終わり：高校の教科書など

⇒元亀4年(1573)の室町幕府の滅亡。
＜織田信長による室町幕府15代将軍足利義昭の京都からの追放事件＞ ※元号を天正と改元。

↓
⇒確かに信長は畿内近国を従えた。しかし、
地方は群雄割拠(戦国争乱)状態が続いている。
(中国：毛利氏、九州：島津氏や大友氏、中部：上杉氏や武田氏、関東：北条氏、東北：伊達氏や最上氏など)

↓
私見：天正19年(1591)秋の豊臣秀吉の天下統一
(奥羽の一揆の制圧と戦後処理：「奥羽再仕置」で統一達成)

◎戦国時代

⇒享徳の乱～豊臣秀吉の天下統一
(1454年) (1591年)

◎テーマ

「宇都宮氏家中内における
芳賀氏の位置と基盤」



芳賀高定画像(真岡市
海潮寺所蔵)



芳賀高継画像(宇都宮市
清盛寺所蔵)

1 史料に見える宇都宮氏家臣団

A. 「宿老中」(「親類」と「家風」)

・自己の家臣団を持った城持ちの門閥層(戦国初期以来の伝統的な家柄の宇都宮氏家臣団)。

・「親類」(一族)⇒当主の兄弟や鎌倉時代に別れた宇都宮氏一族。

笠間・塩谷・上三川・多功・壬生・西方氏など。

・「家風」(重臣)⇒平安末期や鎌倉時代以来の家臣。芳賀・益子氏など。

・「宿老中」について特筆すべき事項

⇒文書を出していたことが指摘できる。

自己の家臣:官途状・受領状・一字書出し・
所領宛行状などを発給。

近隣の宇都宮氏と同家格の諸氏:書状(外
交文書)を遣り取り。

・宇都宮氏と「宿老中」との関係

⇒軍事的には目下(上位・下位)の同盟関係。

⇒宇都宮氏当主に対しては一定程度の自立
性を持った存在。

B. 直臣団

(「老敷(家老)衆」と「近習之衆」)

・宇都宮氏当主の側近に仕え、当主の手足と
なり動いていた家臣団。

・特に天正10年代以降～豊臣期にかけて宇都
宮氏の権力機構内で台頭。活躍が顕著に。
※「宿老中」の宇都宮氏離れが進む状況と
並行して台頭。 ↑(背景)

北条氏の外圧や同氏寄りの壬生・那須氏と
の対立で、衆議が出来ず、使者・書状が届
かず、宿老中の離反や宿老同士の抗争。

・上層の直臣団⇒「老敷(家老)衆」。近隣の
宇都宮氏と同じ家格の諸氏と書状(外交文書)
を遣り取り。

今泉但馬守高光・君嶋備中守高親・清水大
和守高信・玉生美濃守高宗など。

・下層の直臣団⇒「近習之衆」。宇都宮氏当
主から「宿老中」や宇都宮氏と同じ家格の諸
氏への使者を務める。

飯田豊前守・今井奎之助・神長和泉守・籠
谷能登守・横田出羽守など。

C. 土豪層

・町場や村落内で指導的な立場にあった有力
者。地主的な農業経営の他に宿問屋・社僧・
神官・河岸問屋など様々な生業に従事して
いた侍身分の者たち。名字を名乗っていた。

・宇都宮氏の家臣団内では多数を占める中・下
級の家臣団。※戦時には「一疋一領」で参陣。

・宇都宮氏から官途状・受領状・所領宛行状な
どをもらっていた存在。

D. 「宇都宮へ 寄衆」

・宇都宮氏の家中との関連で押されておい
てほしい存在。

・宇都宮氏の外様の同盟者。

一応宇都宮氏からは独立した存在であるが、
宇都宮氏の軍事的な指揮下従属し行動して
いた存在。



下野南西部皆川城の皆川氏

◎芳賀氏の宇都宮氏の家中内の地位
⇒史料的に「家風」と呼ばれた重臣。

今回の講演との関係で押さえておいてほしい城郭

※芳賀氏関係の城郭

・本城⇒真岡城(真岡市台町、真岡小)

・支城⇒飛山城(宇都宮市竹下町)

⇒勝山城(氏家城とも、さくら市氏家)

⇒児山城(下野市下古山)



芳賀氏:宇都宮氏を東と南から補佐する
一方で、牽制。

2 歴代宇都宮氏当主を支えていた 家中構成員の検出

↓
別添 表1から表8を通して

3 歴代宇都宮氏当主毎の家中の権勢者

- (1) 宇都宮明綱の時期(15世紀中期)
 - ・譜代重臣 **芳賀伊賀守成高**
- (2) 宇都宮正綱の時期(15世紀後期)
 - ・譜代重臣 **芳賀高益**(成高の子)
- (3) 宇都宮成綱の時期
(15世紀後期～16世紀初期)
 - ・初め: 一族塩谷戸部(民部少輔)
 - ・後: 譜代重臣 **芳賀景高**(高益の子)と
子の **芳賀高勝**

- (4) 宇都宮忠綱の時期(16世紀前期)
 - ・側近の重臣永山忠好と一族塩谷孝綱
- (5) 宇都宮興綱の時期(16世紀前期)
 - ・譜代重臣 **芳賀高経**(高勝の弟)と **芳賀孝高**
(高経の叔父)
- (6) 宇都宮俊綱(尚綱)の時期(16世紀中期)
 - ・初め: 譜代重臣 **芳賀高経**
 - ・後: 笠間孫三郎・君嶋石見守・岡本美濃守

- (7) 宇都宮広綱の時期(16世紀中・後期)
 - ・初め: **芳賀高定**
 - ・後: 側近の重臣岡本高昌(可月斎宗慶)、
次いで譜代重臣 **芳賀高継**
(高定の養嗣子、後高規→高継と改名)
- (8) 宇都宮国綱の時期(16世紀後期～17世紀初期)
 - ・初め: 譜代重臣 **芳賀高規(高継)**と
当主直属重臣「老敷衆」の今泉但馬守
 - ・後: 当主直属重臣「老敷衆」の今泉但馬守・
玉生高宗・君嶋高親・塙高郷・清水高信など、
その他国綱末弟で **芳賀氏の養嗣子高武**

◎宇都宮氏家中の特質

- (1) 戦国期を通じて、譜代重臣 **芳賀氏**の宇都宮氏家中内での勢力が強く、宇都宮氏の権力内に占めるウェートが大きかったこと。
- (芳賀氏は宇都宮氏の当主を補佐する一方で、宇都宮当主と権力闘争を繰り返した。)

◎宇都宮氏家中の特質 ※(2)は参考

- (2) 天正一桁代後半以降、特に天正10年代前半以降に当主直属重臣「老敷衆」が台頭し、文禄・慶長期になると、宇都宮氏当主権力を支えていたこと。(背景: 北条氏の外圧や同氏寄りの壬生・那須氏との対立で、宇都宮城で衆議が出来ず、使者・書状が宇都宮氏当主と宿老間で届かず、宿老中の離反や宿老同士の抗争が見られたため)。

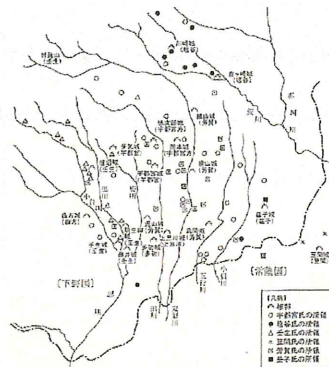
◎政治体制の変化

宇都宮氏当主を中心とした領主連合体制
⇒宇都宮氏当主の専制体制へ

4 芳賀氏の権勢を支えていた基盤

・経済面

⇒有力な一族・重臣層の中で、宇都宮氏に次いで多く持っていた所領。



宇都宮氏と主な一族・重臣層の所領

・芳賀氏

⇒経済基盤の豊かさから、主家の宇都宮氏当主から一定程度、経済的かつ政治的に自立する存在となることができ、宇都宮氏の家中内で強大な力を発揮することができたと推測される。

おわりに

・本日の題⇒「宇都宮氏家中内における芳賀氏の位置と基盤」

・結果⇒芳賀氏が戦国時代を通じて宇都宮氏の権力機構内に占めるウェートが大きく、宇都宮氏当主を補佐する一方で、宇都宮氏当主と権力闘争を繰り広げた時期があったことを指摘。

・背景⇒芳賀氏が宇都宮氏の家中内で、他の家中の者より所領を多く持ち、経済的な面で優位であったことを指摘。

・芳賀氏⇒経済基盤の豊かさから、主家の宇都宮氏当主から一定程度、経済的にかつ政治的に自立する存在として、宇都宮氏の家中内で強大な力を発揮することができたことを推測。

・芳賀氏の限界⇒戦国時代は身分制社会。宇都宮氏当主の呼称「屋形」号に変わる、当時の社会で認知され、宇都宮氏当主を凌げるような呼称を名乗れなかったこと。

※所詮芳賀氏⇒「家宰」にしか過ぎず。

(小田原北条氏: 苗字を伊勢氏から、鎌倉幕府№2の執権の苗字北条氏に変え、北条氏当主は他者から「大途」で呼ばれるようになる。)

ご清聴ありがとうございました。



表1 宇都宮明綱期(15C中期)宇都宮氏権力を支えた人物がわかる文書

No.	日付	文書名	発給者	宛所	内容	文書群名
1	[長禄4(1460)] 10・21	御内書 案写	(足利義政)	芳賀伊賀守殿 (成高力)	宇都宮明綱が古河公方足利成氏追討を延引していることを叱責し、明綱が早く味方に参るよう籌策を命じる。	No.96御内書 案

表2 宇都宮正綱期(15C後期)宇都宮氏権力を支えていた人物がわかる文書

No.	日付	文書名	発給者	宛所	内容	文書群名
1	[文明3(1471)] 8・19	御内書 写	(足利義政)	芳賀左兵衛尉とのへ (高益)	宇都宮正綱を計略で味方につけた功を賞す。	No.156御内 書符案
2	年未詳 10・17	書状	正綱(花押) (宇都宮)	専修寺	専修寺太子堂建立用の材木を門徒中より求めることを認め、巨細芳賀越前入道(高益)が申すことを報じる。	書No.200専 修寺文書
3	年未詳 10・20	書状	芳賀高益(花押)	専修寺	宇都宮正綱から造営を急ぐようにと命じられていることを伝え、門徒中より材木の寄進を受け、寺家の再興を図るよう勧める。	No.198専修 寺文書
4	年未詳 10・23	書状	芳賀美作入道宗恩 (花押)	専修寺	宇都宮正綱から造営について折紙で指示があったことを伝え、早々の造営が肝要なことを報じる。	No.199専修 寺文書

表3 宇都宮成綱期(15C後期～16C初期)宇都宮氏権力を支えていた人物がわかる文書

No.	日付	文書名	発給者	宛所	内容	文書群名
1	文明10(1478) 11・18	造宮日記			慈心院で宇都宮成綱と共に観能する諸宿老として塩谷戸部(民部少輔)、上三川芸州、田代中務大輔の順に名が見える。	宇都宮二荒 山神社所蔵
2	文明18(1486) 2・13	奉書	左衛門尉景高(花押) (芳賀)	(一向寺)	宇都宮成綱の意向を受け、諸公事・頭役銭・流鏑馬銭等の免除を執達する。	No.210一向 寺文書
3	延徳4(1492) 10・2	連署寄 進状写	下野守成綱(花押影) (宇都宮) 左衛門尉景高(花押 影)(芳賀)	成高寺侍者御中	宇都宮成綱と共に、大内庄内大根田半郷、西方三沢郷内福恩寺分并に慶蔵院分を寄進する。	No.224寺社 古状
4	[明応年中(1492 -1501)前後]9・5	書状写	成綱(花押影) (宇都宮)	寺崎殿	笠間孫四郎が謀略露頭で笠間城を没落した一方で、寺崎氏など重臣たちが宇都宮成綱方に留まったを賞し、笠間孫四郎の動きによっては軍勢を派遣することを伝え、巨細は芳賀左兵衛尉(高勝力)が申すことを報じる。	No.236秋田 藩家蔵文書 四九
5	文亀3(1503)癸 亥12・22	副状写	清原新左高勝(花押 影)	成高寺侍者御中	宇都宮成綱が成高寺に犬飼郡内下稲葉郷等を寄進したことを執達する。	No.244寺社 古状
6	文亀4(1504) 3・5	副状写	清原高勝(花押影)	成高寺侍者御中	宇都宮成綱が成高寺に犬飼郡内下稲葉郷等を寄進したことを取次ぐ。	No.249寺社 古状
7	永正7(1510)庚 午卯・8	安堵状	下野守成綱(花押) (宇都宮)	宝珠庵	芳賀左兵衛尉(高勝)の宝珠庵への寄付行為を安堵する。	No.264海潮 寺文書
8	[永正9(1512)] 孟夏・2	書状写	(足利高基花押影)	石川治部大輔殿 (尚光)	宇都宮成綱が芳賀左兵衛尉(高勝)を生生涯したことにより宇都宮家中が錯乱状態になったことを報じる一方で、宇都宮成綱を扶助するよう命じる。	No.281集古 文書
9	[永正9(1512)] 孟夏・2	書状	(足利高基花押)	板橋下野守殿 (房好)	宇都宮成綱が芳賀左兵衛尉(高勝)を生生涯したことにより宇都宮家中が錯乱状態になったことを報じる一方で、宇都宮成綱を扶助するよう命じる。	No.282板橋 文書
10	[永正9(1512)] 卯・2	副状写	平高助(花押影) (築田)	謹上 石河左衛門佐 殿 (成次)	宇都宮成綱が芳賀左兵衛尉(高勝)を生生涯したことにより宇都宮家中が錯乱状態になったことを報じる一方で、出陣し宇都宮成綱と相談するのが上意(足利高基の意向)であることを伝える。	No.283合編 白河石川文 書

表4 宇都宮忠綱期(16C前期)宇都宮氏権力を支えていた人物がわかる文書

No.	日付	文書名	発給者	宛所	内容	文書群名
1	[永正11(1514)] 6・11	副状	修理亮忠好(花押) (永山)	謹上 佐八美濃守殿 御報	先祖宇都宮等綱が佐八氏に進上していた判形の写が届けられたのであろうか、宇都宮忠綱は等綱文書の旨に従い文書を認めるつもりであることを報じる。	No.320佐八 文書
2	[永正11(1514)] 7・28	書状	藤原忠綱(花押) (宇都宮)	謹上 伊達殿 (伊達植宗)	両那須に向け軍事行動をすることを述べ、心底は田代中務大輔が使者として参上し、対語することを報じる。	No.324伊達 家文書

3	[永正11(1514)] 9・16	書 状	修理亮忠好(花押) (永山)	謹上 佐八美濃守殿 御宿所	此方が本意に属したからには一所を寄進する旨、及び宇都宮忠綱が初尾として鳥目200疋を寄進する旨を報じる。	No.333佐八 文書
4	永正11(1514) 甲戌 10・14	寄進状	前伯耆守藤原朝臣孝 綱(花押) (塩谷)	明眼寺、勝鬘寺御同 宿中	高田専修寺の住職として真智が下向してきたことを喜び、宇都宮忠綱が真智を拝崇することを伝え、若色郷内の地を亡父の焼香料所として専修寺に寄進する。	No.334法雲 寺文書
5	[永正11(1514)] 10・14	書 状	孝綱(花押) (塩谷)	秀林坊進之候	高田専修寺の住職として真智が下向してきたことを喜び、宇都宮忠綱が真智を拝崇することを伝え、若色郷内の地を亡父の焼香料所として専修寺に寄進する。	No.335法雲 寺文書
6	[永正17(1520)] 10・20	書 状	修理亮忠好(花押) (永山)	謹上 佐八美濃守殿 御報	宇都宮忠綱と私への御音物の礼を述べ、栗嶋の土貢を毎年の如く7貫文納めることを報じる。	No.355佐八 文書
7	[大永期(1521- 28)]10・15	書 状	沙弥道損(花押) (永山忠好)	謹上 佐八美濃守殿 御報	乱入事件があったが、洞の静謐を受け、宇都宮忠綱より佐八美濃守に申し入れる旨報じる。	No.371佐八 文書
8	年未詳 10・28	書 状	修理亮忠好(花押) (永山)	謹上 佐八美濃守殿 御報	栗嶋の年貢について不作だが前々の如く納めること、及び宇都宮忠綱が直接報告する旨報じる。	No.378佐八 文書
9	年未詳 11・21	書状写	忠綱(花押影) (宇都宮)	寺崎宮内少輔殿	笠間資綱父子の出陣に合わせて自身出陣してほしい旨を告げ、時宜については塩谷伯耆守孝綱が申し届ける旨報じる。	No.372秋田 藩家蔵文書 四九

表5 宇都宮興綱期(16C前期)宇都宮氏権力を支えていた人物がわかる文書

No.	日 付	文書名	発給者	宛 所	内 容	文書群名
1	[大永7(1527)] 小春・26	書 状	刑部太輔孝高(花押) (芳賀)	謹上 佐八美濃守殿	栗嶋土貢の不足を宇都宮興綱に取り次ぐので、興綱から申し付けがあることを報じる。	No.382佐八 文書
2	大永8(1528)戊 子2・7	奉書写	高経(花押影) (芳賀)	宝珠庵侍司	宇都宮興綱の仰せにより、宝珠庵に光西寺の替所として大内庄田銭合わせて15貫文を宛行うことを執達する。	No.387「下野 国誌」卷七 所収海潮寺 文書
3	大永8(1528)戊 子3・19	副状写	清原高経(花押影) (芳賀)	成高寺侍者御中	宇都宮興綱が成高寺に玉生郷内玉雲寺を寄付したとして副状を発給する。	No.390寺社 古状
4	[享禄末～天文 初期] 正・28	書状写	高経(花押影) (芳賀)	赤埴信濃守殿	御屋形様(宇都宮興綱)との確執につき、戸祭四郎右衛門と共に奔走してくれた結果、御屋形様と自分が誓詞を以って和解したと労をねぎらう。	No.408小田 部庄右衛門 氏所蔵文書
5	[享禄末～天文 初期] 正・晦日	書状写	興綱 (宇都宮)	赤埴信濃守殿	去年以来の兵衛(芳賀高経)との確執につき、赤埴信濃守の奔走で誓詞を以って和解したと労をねぎらう。	No.409小田 部庄右衛門 氏所蔵文書

表6 宇都宮俊綱(尚綱)期(16C中期)宇都宮氏権力を支えて人物がわかる文書

No.	日付	文書名	発給者	宛所	内容	文書群名
1	[天文3(1534)] 8・2	副状写	高経(花押影) (芳賀)	成高寺玉案下	光明寺の領有を安堵する。※宇都宮俊綱の安堵状発給に1日先立っての発給。	No.418寺社古状
2	天文4(1535) 暦11・9	副状	右兵衛尉高経(花押) (芳賀)	謹上 内宮佐八与次殿	氏家郡内栗嶋郷について、改めて当代当主宇都宮俊綱の一筆安堵状に副状を添える旨報じる。	No.431佐八文書
3	天文7(1538) 12・2	造営日記	……………	……………	慈心院で宇都宮俊綱と共に観能する宿者中として、塩谷伯州(孝綱)、壬生中務(綱雄)、壬生彦次郎(義雄)、上三河芸州、一条家歌道者高井、田代中書、田代好生軒の順に名が見える。※俊綱と対立関係にあった芳賀殿(高経)は裏頭で観能。	宇都宮二荒山神社所蔵
4	[天文8(1539)] 7・28	書状	高朝(花押) (小山)	白川殿 (義綱)	壬生中務太輔(綱雄)の慮外増進で宇都宮家中が分裂したこと、芳賀右兵衛尉(高経)が小山高朝に接近してきたことにより、宇都宮俊綱が右兵衛尉(高経)を生涯しようとしたため、高経が児山城(下野市)に立て籠もったことなどを報じる。	No.459東京大学白川文書
5	天文8(1539)	今宮祭祀録	……………	……………	兵衛(芳賀高経)が緩怠故、宇都宮俊綱が成敗したという。	さくら市西導寺所蔵
6	[天文9(1540)] 2・11	書状写	俊綱(花押影) (宇都宮)	寺崎中務少輔殿 (笠間氏家臣)	数日の在城の功を称え、(寺崎中務少輔の主君)笠間孫三郎が申し届ける旨報じる。	No.466秋田藩家蔵文書四九
7	[天文15～18 (1546～49)] 正・13	書状	尚綱(花押) (宇都宮)	小宅刑部少輔殿 (高尚)	市塙越前守の地利に付、君嶋石見守を遣わす旨報じる。	No.496小宅定一郎家文書
8	[天文17(1548) カ] 八朔	書状	尚綱(花押影) (宇都宮)	左月庵 (古河公方家臣)	壬生氏(壬生中務太輔綱雄)による宇都宮領への侵入や、その後の壬生氏成敗などについて報じ、巨細岡本美濃守が申し届ける旨伝える。	No.509秋田藩家蔵文書二四

表7 宇都宮広綱期(16C中・後期)宇都宮氏権力を支えて人物等がわかる文書

No.	日付	文書名	発給者	宛所	内容	文書群名
1	[天文19(1550)] 正・12	書状	高定(花押) (芳賀)	小宅刑部丞殿 (高尚)	真岡へ屋形様(宇都宮広綱)が移ってきて以来の忠信を賞す。	No.521小宅定一郎家文書
2	[弘治元(1555)] 閏月(閏10)・27	感状写	左衛門太夫高定 (花押影) (芳賀)	平野大膳亮殿	礎の地における戦功を賞す。※同人宛て宇都宮伊勢寿丸(広綱)感状発給に先立っての発給。	No.554秋田藩家蔵文書五二
3	[弘治期(1555～1558)]10・10	書状	藤原伊勢寿丸 (宇都宮広綱)	謹上 内宮佐八掃部助殿	御祓太麻・油煙・鳥子が送られてきた礼言と栗嶋の土貢を毎年の如く送ることを記し、巨細は岡本美濃守(高昌)が申し届ける旨報じる。	No.622佐八文書
4	年欠拾・27	書状	美濃守高昌(花押) (岡本)	内宮佐八掃部助殿	御祓太麻・鳥子・油煙が送られてきたことを伊勢寿丸に披露した旨記し、栗嶋の土貢を前々の如く送ることを報じる。	No.640佐八文書
5	[永禄3冬～同4 春(1560～61)]	関東幕注文	……………	……………	越後上杉謙信方に与した宇都宮家中の者として、宇都宮広綱、親類の笠間孫三郎・塩谷左衛門大夫・上三川次良・多宮虎寿丸・西方又三良、その次に田代中務太輔、家風の芳賀伊賀守・益子右衛門尉・(中里)神太夫の順に名が見える。	No.657上杉家文書
6	[永禄5～7(1562～64)]2・26	副状写	伊賀守高定(花押影) (芳賀)	平野大膳亮殿	広綱が鳥目5千疋を借用したが、来秋の瓦谷郷の土貢で返済することを取り次ぐ。	No.691秋田藩家蔵文書五二
7	[永禄9 (1566)]2・一	陣立書写	……………	……………	上杉謙信方による常陸小田氏治(北条方)攻撃に、芳賀高継カ、宇都宮広綱の代官として200騎を率いて参陣する。	No.778上杉輝虎公記上所収文書
8	[永禄10 (1567)]2・8	書状写	孝山(花押) (小山秀綱)	岡本筑後守殿 (高永)	宇都宮広綱が芳賀十郎(高継)を越後上杉謙信軍に合流させるために出陣させたことを記し、岡本筑後守高永が高継に同陣し、唐沢山城近くに赴いたことを誇る。	No.792若松文書
9	[永禄11 (1568)]11・晦日	書状	沙弥道楽(花押) (皆川俊宗)	謹上 細川兵部太輔殿御報 (藤孝)	足利義昭が諸国に軍勢催促した際宇都宮広綱の所にも御書を森坊をもって成し下され、吾々へも馳走するよう命令をいただいたことに過分と記し、義昭が上洛を果たしたことを目出度く思っている旨披露を依頼する。	No.824細川家文書
10	天正5(元亀3の誤記)正・14	下野国御旦那帳	……………	……………	皆川心哲(心徹斎道楽、俊宗)、宇都宮広綱の家老岡本可月(可月斎宗慶)を殺害する。	国文学研究資料館所蔵

11	[元龜3(1572)] 正・15	東州雜記	……………	……………	皆川真テツ入道(心徹斎道楽、俊宗)宇都宮館に侵入し占拠。宇都宮氏の家政を掌握し恣にする。主君宇都宮広綱は病氣。	千秋文庫所蔵
12	[元龜3(1572)] 卯・19	書状写	岡本筑後守高永 (花押影)	山吉殿御宿所 (豊守)	越後国へ宇都宮広綱・佐竹義重が前々のように申し談ずるので、取り次いでほしい旨依頼する。	No.927吉川金蔵氏所蔵文書
13	[元龜4(1573)] 2・22	書 状	芳賀高継(花押)	松野殿 (資通カ)	皆川の地に向け、宇都宮広綱が佐竹義重と相談し侵攻した際に、加勢として出陣したことを賞すると共に、戦局が広綱の意向通りになった旨報じる。	No.949松野文書
14	[元龜4(1573)] 2・25	書状写	広綱(花押影) (宇都宮)	土屋右衛門尉殿 (昌統)	皆川俊宗が宇都宮広綱に敵対したので、佐竹義重外味方中と相談し当春調儀をなし、俊宗方の10ヶ城を攻略したことを報じ、委細は芳賀十郎(高継)が申し届ける旨伝える。	No.950佐竹文書
15	[天正2(1574)] 3・26	感 状	(芳賀高継花押)	高橋和泉守殿	新里郷への鹿沼からの朝懸に対する防戦の功を賞し、宇都宮広綱が直に感悦を仰せ出されることを伝える。	No.1000高橋省吾家文書
16	[天正2(1574)] 3・26	感状写	(芳賀高継花押)	半田藤右衛門尉殿	新里郷への鹿沼からの朝懸に対する防戦の功を賞し、宇都宮広綱が直に感悦を仰せ出されることを伝える。	No.1001小田部庄右衛門氏所蔵文書
17	[天正2(1574)] 5・2	書 状	義重(花押) (佐竹)	田村殿 (清顕)	宇都宮広綱が壬生氏攻撃につき芳賀十郎(高継)を義重の下に遣わしてきて出馬を望んだので宇都宮口に出馬したことを報じる。	No.1008青山文書
18	[天正2(1574)] 5・2	書 状	徳雪斎周長(花押)	太田御館人々 (佐竹義重)	徳雪斎周長、芳賀拾郎(高継)同様佐竹氏の太田城に行き、宇都宮広綱の懇望を伝え佐竹氏が出馬することになったことに礼を述べる。	No.1009瀬谷文書
19	[天正2(1574)] 8・28	書 状	芳賀十郎高継(花押)	小田野大和守殿 (義房)	関宿の築田氏から南衆(北条衆)が利根川を超え侵攻してきているとの情報が入ってきたことを伝え、宇都宮広綱も使者を送るので佐竹氏に披露してほしい旨依頼する。	No.1025瀬谷文書
20	[天正4(1576)] 霜・23	書状写	芳賀十郎高継(花押)	小田野彦三郎殿 (義忠)	佐竹義重が野口まで出馬してきたと聞いているが、早く当地に来てほしい旨義重に披露を依頼する。	No.1125秋田藩家蔵文書一七
21	[天正5(1577)] 7・20	書状写	芳賀高規(花押影)	松源寺御報	結城晴朝の家臣松源寺に、北条氏への小山氏の取成に関し、宇都宮広綱が苦勞していることを述べる。	No.1149秋田藩家蔵文書四一
22	[天正5(1577)] 12・2	書状写	広綱 (宇都宮)	松源寺	結城晴朝から使者に預かった札を述べ、今泉但馬守が申し届けるので、晴朝に取り次いでほしい旨依頼する。	No.1173秋田藩家蔵文書四一

表8 宇都宮国綱期(16C後期～17C初期)宇都宮氏権力を支えていた人物等がわかる文書

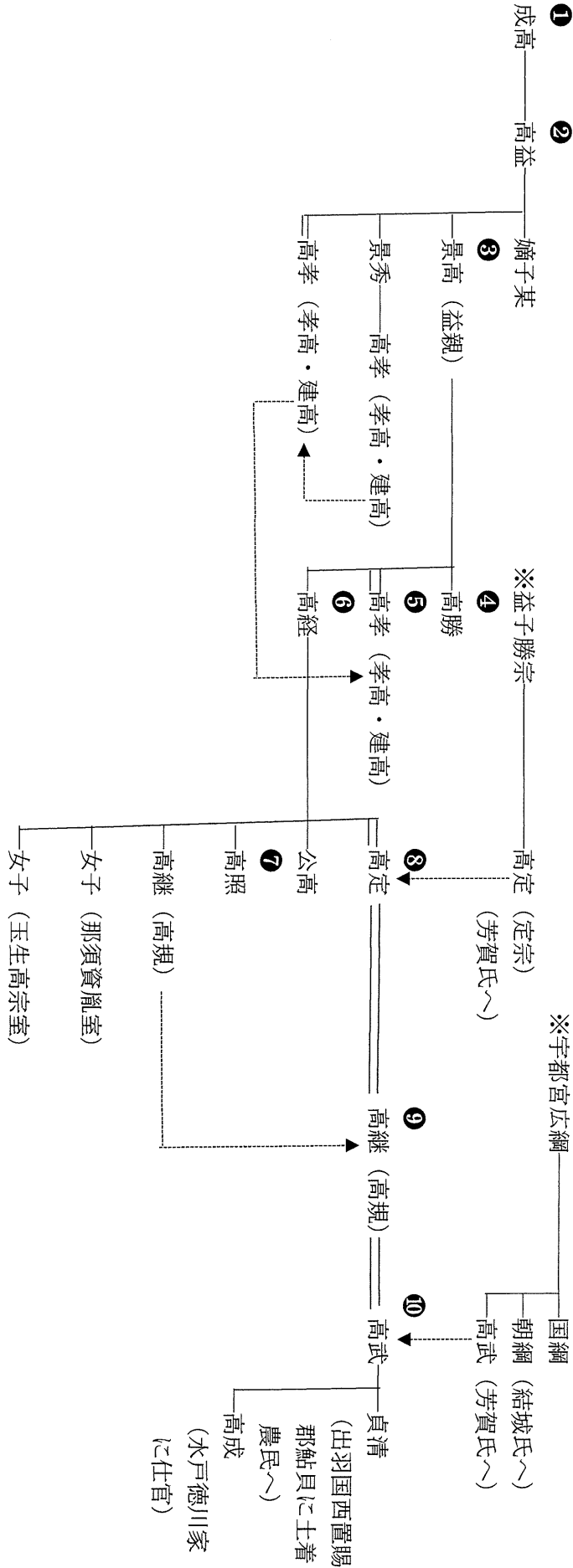
No.	日付	文書名	発給者	宛所	内容	文書群名
1	天正6(1578)戊戌9・22	書下写	高規(花押影) (芳賀)	土肥主膳亮殿	屋形様(宇都宮国綱)が主膳亮に任じたことを伝え、一字を下さることも報じる。	No.1222秋田藩家蔵文書四一
2	[天正8(1580)]8・5	書状写	勝頼判 (武田)	今泉但馬守殿	当秋の備えにつき相談すべく、佐竹義重より便りがあったこと、及び自分も義重に使者を遣わし義重と通じ合っていることを報じる。	小田部庄右衛門氏所蔵文書
3	[天正8(1580)]8・15	書状写	跡部淡路守家吉判	芳賀右馬允殿 (高継)	武田勝頼家臣淡路家吉、 芳賀高継 に、来秋の調儀について使者を派遣し武田氏と申し合わせたことを称賛し、これらの趣を宇都宮国綱に披露してほしい旨依頼する。	No.1322小田部好伸家文書
4	[天正9(1581)]カ弥生・拾1	書状写	伊賀守高継(花押影)	築又御宿所 (築又次郎)	築又次郎と多却氏間の紛争解決に納得してくれたことを賞する一方、前々のように互いに入魂にするよう求める。	No.1341秋田藩家蔵文書四八
5	[天正12(1584)]3・25	書状	芳賀高継(花押)	中書御陣所 (佐竹東義久)	西表の状況について伝え、宇都宮国綱も佐竹義重同様に京都の羽柴秀吉に連絡する旨報じる。	No.1469小田部庄右衛門氏所蔵文書
6	[天正12(1584)]卯・12	書状写	義久御判 (佐竹東)	多功孫二郎殿 (綱継)	南衆(北条衆)の出張に合わせ佐竹義重も宇都宮に着陣したが、早速使者を派遣してくれたことに礼を述べる。	No.1471小田部好伸家文書
7	[天正12(1584)]卯・13	連署書状	江庵玄策(花押) 長山信濃守通兄 (花押)※佐竹東家 家臣	多却責報人々御中	南衆(北条衆)の出張に合わせ着宮したが、使者に預り祝賀の意を述べる。	No.1473多功文書
8	[天正12(1584)]卯・28	書状写	晴朝(花押) (結城)	芳賀伊賀守殿 (高継)	佐野天徳寺宝符からの副状写を宇都宮国綱に見せるために進上したこと、及び佐竹北義斯・佐竹東義久と宇都宮国綱との相談実現に向け馳走を依頼する。	No.1489関沢賢家文書
9	[天正13(1585)]卯・朔	書状写	不説判 (白川義親)	今泉但馬守殿	川崎塩谷氏と那須資晴が事切れし、宇都宮国綱が塩谷氏を支援し那須資晴と戦ったが、佐竹・結城両氏が仲裁するので取成してほしい旨依頼する。	No.1551小田部好伸家文書
10	[天正13(1585)]6・2	書状写	皆川山城守広照判	宮御館人々御中 (宇都宮国綱)	南衆が新田の近辺に在馬していることを昨日 今泉但馬守 に注進したこと、及びこの点を宇都宮国綱に披露してほしい旨相衆衆が申していることを報じる。	No.1575小田部好伸家文書
11	[天正13(1585)]6・3	書状写	三楽斎道譽判 (太田)	宮人々御中 (宇都宮国綱)	来秋先年来の北条氏との戦さに決着をつけること、及び具体的なことは 今泉方(今泉但馬守) に申し上げること報じる。	No.1576小田部好伸家文書
12	[天正13(1585)]7・4	書状	国綱(花押) (宇都宮)	多功石見守殿 (綱継)	佐竹義重の出馬について、話を詰めるために、 芳賀伊賀守(高継) を太田城に遣わす旨報じる。	No.1585多功文書
13	[天正14(1586)]8・5	書状写	芳賀伊賀守高継 (花押影)	御辺御南貴報 (白川常広)	宇都宮国綱が北条方の壬生・鹿沼の壬生義雄を攻め、佐竹義重も出馬してきたので戦果をあげたことを報じる。	No.1707新編会津風土記所収文書
14	[天正14(1586)]8・12	副状写	伊賀守高継(花押影) (芳賀)	築又御宿所 (築又次郎)	去年延期した宇都宮社の造営を今年の秋に行うにつき、屋形様(宇都宮国綱)から命令がある旨述べる。	No.1710小田部庄右衛門氏所蔵文書
15	[天正14(1586)]9・2	書状写	玉生美濃守高宗 (花押影)	進上中里神太夫殿御床下	北条方が多気山城の大谷辺まで乱入してきたが撤退させたこと、及び貴方が北条一族の大道寺又五郎を討ち取ったことを賞し、宇都宮国綱への披露状で申し上げることなどを報じる。	No.1717中里文書
16	[天正15(1587)]2・11	書状写	国綱(花押影) (宇都宮)	寺崎出羽守殿	菊地松音軒 を通して申してきたことについて、笠間孫三郎も得心していることを賞す。	No.1735秋田藩家蔵文書四九
17	天正15(1587)乙亥卯・7	起請文写	芳賀高継「血判」 (花押影)	笠間殿御報 (綱家)	屋形様(宇都宮国綱)への忠信について、誓書を以て申し上げてきたことを聞き、自分も本望である旨述べる。	No.1745秋田藩家蔵文書四九
18	[天正16(1588)]孟夏・26	書状	笠間孫三郎綱家 (花押)	烏山江参 (那須資晴)	南軍(北条軍)が去る22日に小田領に侵攻し、23日には筑波に乱入し知息院に放火し、籠城者200余人が死去したとの知らせがあった旨報じる。	No.1799瀧田文書

No.	日付	文書名	発給者	宛所	内 容	文書群名
19	[天正16(1588)] 5・22	書 状	義重(花押) (佐竹)	多功孫次郎殿 (綱継)	笠間氏への対処として、佐竹北義斯と佐竹東義久を出陣させたが、自分も出馬する予定であることを告げ、宇都宮国綱に出馬するよう取成を依頼する。	No.1802多功文書
20	[天正16(1588)] 5・23	書 状	慈心院尊紹(花押)	多却御陳所	江戸衆が多数死去したとのうわさがあつた。これにより屋形(宇都宮国綱)が今日真岡の辺まで出馬する予定であつたが、結城氏より知らせが入り、一兩日日延べになったことを報じる。	No.1804多功文書
21	[天正16(1588)] 7・23	書状写	君嶋高親(花押影)	新国殿御報 (貞通)	会津蘆名氏家臣新国貞通に、蘆名氏が旧冬の宇都宮国綱の祝儀に際し、馬1疋を贈ってくれた礼を述べる。	No.1829歴代古案四
22	[天正16 (1588)] 拾1・8	書状写	睡虎斎宗竹(花押) (益子治宗)	君嶋備中守殿 (高親)	笠間家中の者共が退散したが静かになったこと、及び田気(宇都宮氏)に対し忠信を尽くすと言っていることを告げ、宇都宮国綱に披露を依頼する。	No.1842小田部庄右衛門氏所蔵文書
23	天正18(1590) 正・23	副状写	芳賀高継(花押影)	小場殿御陣所 (義成)	豊臣秀吉が小田原発向を伊勢の高田専修寺を通じて書状で知らせてきたことを伝える。	No.1908佐竹文書五
24	[天正18(1590)] 2・29	書状写	君備高親(花押影) (君嶋備中守)	小場御閑居参人々御中 (小場義宗)	あなたの陣の模様を宇都宮国綱に報告するよう依頼する。	No.1913佐竹文書五
25	天正18(1590) 卯・21	書状写	慈心院尊紹(花押影)	小場殿御陣所 (義成)	京都の豊臣秀吉への手合わせとして、佐竹義宣が宇都宮表に陣を張っていることを報じる。	No.1931佐竹文書五
26	天正18(1590) 5・27	参礼次第注文写	……………	……………	宇都宮国綱の小田原豊臣秀吉陣所への参陣に供奉した家中の者として、 結城七郎・益子・笠間・多功・西方・上三川・塩谷・芳賀駿河守・祖母井 の順に名が見える。	No.1954佐竹文書三坤
27	[天正18(1590)] 9・28	副状写	塙鞠負尉高郷	佐八七神主殿御返報	宇都宮国綱の上洛を聞き、見舞の使者を送ってきた礼を国綱が直報した旨報じる。	No.1996佐八文書
28	[天正19(1591)] 正・4	書状写	今但高光(花押影) (今泉但馬守)	寺中御報 (寺崎中務少輔力)	笠間孫三郎が家中の路川大和守を追放して以来屋形様(宇都宮国綱)に忠信を尽くしてきたが、国綱に闕所を命じられたことに触れ、如在に扱わない旨報じる。	No.2011秋田藩家蔵文書四九
29	[天正19(1591)] 正・10	書 状	清水半左衛門口 (花押) (後の清水大和守高信、円斎力)	佐八豊前守様貴報	宇都宮国綱が初めて上京し、機嫌よく越年したこと、及び私どもも御供していることなどを報じる。	No.2012佐八文書
30	[天正19(1591)] 卯・18	書状写	君嶋左馬助尊範	内宮七神主殿貴報 人々御中	宇都宮国綱に供奉し在京していることを聞こし召し、御祓・大麻并長炮を送ってきたことに礼を述べる。	No.2020佐八文書
31	[天正19(1591)] 5・12	書 状	範実(花押) (塙)	内宮佐八殿貴報	宇都宮国綱の上洛に際し、祈念の御祓・大麻并長炮を贈ってきたことに国綱が喜んで旨など報じる。	No.2032玉生弘昌家文書
32	[天正19(1591)] 5・13	書 状	芳賀十郎高武(花押)	謹上内宮佐八神主殿 貴報人々	宇都宮国綱に供奉して上洛したことを聞こし召し、御祓・大麻并に長炮を贈ってきた礼を述べる。	No.2033佐八文書
33	[天正19(1591)] 5・25	書状写	君嶋六郎尊精	内宮佐八神主殿貴報	宇都宮国綱の上洛を聞こし召し、言上してきたことに、国綱が祝着と申している旨を報じる。	No.2036佐八文書
34	[天正19(1591)] 6・26	書 状	塙大膳亮範実(花押)	内宮佐八神主様貴 人々	宇都宮国綱の所に銀糸、女房衆へ白粉が贈られてきたことに御礼を述べている旨伝え、国綱が去る13日に帰国したが、奥羽一揆の動員に備えるためであることを報じる。	No.2043佐八文書
35	天正19(1591) 辛卯12・24	書状写	塙大膳亮範実	佐八神主様	御祓・土産が贈られてきたことを宇都宮国綱に披露したことなどを報じる。	No.2080佐八文書
36	[天正20(1592)] 3・朔	副状写	北太勝辰 (北条太蔵)	佐八殿御報人々	唐入を聞き宇都宮国綱の所に御祓以下を贈ってきた礼を述べる。唐入には塙大膳亮が供奉しないので自分が取次ぐ旨報じる。	No.2097佐八文書
37	[文禄2(1593)] 閏9・10	連署書状	塙鞠負尉高郷(花押)、 祖母井左京亮高口(花押)	内宮佐八殿人々御中	宇都宮国綱の急ぎの参宮意志を伝え、差配を依頼する。	No.2220佐八文書
38	[文禄3(1594)] 5・20	書 状	高武(花押) (芳賀)	謹上佐八七神主殿 貴報	豊臣秀吉から宇都宮氏に課せられた山城伏見城の普請役を務め終え下国したならば、在所より申し上げ又承る旨報じる。	No.2246佐八文書

No.	日 付	文書名	発給者	宛 所	内 容	文書群名
39	[文禄5(1596)] 8・朔	書状写	片庭将監実藤	内宮七神主殿 (佐八)	宇都宮国綱が地震で心元ないと仰せ届けたことに対し、御祓以下をお贈り下され、祝着と国綱が述べている旨伝える。	No.2319佐八 文書
40	[文禄5(1596)] 8・14	官途状	国綱(花押) (宇都宮)	芳賀左兵衛尉殿 (高武)	明使来朝に伴う武者揃に国綱と共に上洛した功を賞せられ、左兵衛尉の官途を付与される。	No.2324関沢 賢家文書
41	[慶長3(1598)] 正・晦日	書状写	高信「花押」 (清水)	権太夫殿 (玉生武貞)	玉生美濃守(高宗)の越度につき、宇都宮国綱が玉生五郎(武宗)に京より国元に下向し、一族の者共に力をつけるよう命じているので、五郎の仕置に助言するよう依頼する。	No.2363秋田 藩家蔵文書 二四
42	[慶長3(1598)] 3・3	書状写	高信「花押」 (清水)	(宛所欠)	殿様(宇都宮国綱)の近日の渡海予定と我らの供奉を伝える。併せて玉生五郎(武宗)殿への意見を忘れないよう依頼する。	No.2368秋田 藩家蔵文書 二四
43	[慶長3(1598)] 3・7	書状写	義久「花押」 (佐竹東)	玉生権大夫殿御中 (武貞)	玉生美濃守(高宗)を憂える一方で、宇都宮国綱より玉生五郎(武宗)に御用を指示した旨報じる。	No.2369秋田 藩家蔵文書 二四
44	[慶長3(1598)] 5・15	書状写	義久「花押」 (佐竹東)	玉生権大夫殿 (武貞)	宇都宮国綱の渡海を報じ、玉生五郎(武宗)・玉生美濃守(高宗)・清水大和守(高信)のことも記す。	No.2380秋田 藩家蔵文書 二四
45	[慶長4(1599)] 閏3・11	書 状	清水大和守高信 (花押)	佐八七神主様貴報 人々	宇都宮弥三郎(国綱)の身上が前々のように落著するよう祈念を依頼する。	No.2396佐八 文書
46	慶長4(1599) 9・吉日	願文	清水大和守入道高 遙(花押)	(宛所欠)	宇都宮弥三郎(国綱)の身上安堵を願い、神楽銭12貫文を進上する。	No.2403佐八 文書
47	慶長4(1599) 10・3	書 状	国綱(花押) (宇都宮)	七神主殿御報 (佐八)	拙者の身上安堵について祈祷依頼の願書を進上することを述べ、委細は清水大和守入道(高遥)が申し届ける旨報じる。	No.2404佐八 文書
48	慶長4(1599) 10・6	書 状	清原高武(花押) (芳賀)	佐八七神主殿貴報 人々御中	宇都宮の本意(再興)祈念を依頼する。	No.2405佐八 文書
49	[天正8～17 (1580～89)] 9・朔	書 状	芳賀伊賀守高継 (花押)	小田野刑部少輔殿 (義忠)	興禅寺の僧が帰着し、もたらした事柄を佐竹北義斯と佐竹東義久に伝えたことを報じる。	No.2162小田 部庄右衛門 氏所蔵文書
50	[天正19～慶長2 (1591～97)] 2・14	書 状	今泉但馬守高光 (花押)	内宮佐八殿御報	宇都宮氏の女房衆が在京していることを聞こし召し、使者と祈念の御祓・長炮を進上してきたことに喜んでいる旨など報じる。	No.2015佐八 文書
51	[天正19以降] 霜・12	書 状	高郷(花押) (塙鞠負)	佐八七神主殿人々御 中	弥三郎(宇都宮国綱)の参官に際し横合があったことを述べる。また、代官が宇都宮に御下りの際の取次ぎを申し出る。	No.2170佐八 文書
52	[天正後期] 7・9	書 状	慈心院尊紹(花 押)	多却参 (房朝)	5・3日のうちに宇都宮国綱に申し上げるつもりであること、及び今但(今泉但馬守)外老敷衆や御近習之衆と申し合わせることに肝要なことを伝える。	No.2154多功 文書
53	[天正後期～文 禄元]八朔	書状写	多賀谷弾正忠村家 判	今泉但馬守殿	八朔の祝儀として弓・団を贈ってきた礼を述べる。	No.2155小田 部好仲家文 書
54	[天正後期] 10・16	書状写	塩谷義綱(花押影)	君備へまいる (君嶋備中守高親)	鹿沼攻めに出陣馳走したことに、宇都宮国綱が悦喜し礼言を述べてきたことなどを報じる。	No.2166小田 部庄右衛門 氏所蔵文書
55	[天正期] 3・22	書状写	芳賀高継(花押 影)	松源寺進覧	滞在地の武茂から結城への帰寺について、宇都宮国綱が使者を通じて委細手はずを申し述べる旨報じる。	No.2146秋田 藩家蔵文書 四一
56	[天正期] 10・26	書 状	中将俊紹(花押)	孫次郎殿参 (多功)	祖母井氏との小競り合いを心配し、老敷衆と相談することが肝要なことなどを伝える。	No.2167多功 文書
57	[慶長3以降] 10・6	書 状	清原高武(花押)	佐八七神主殿人々御 中	宇都宮氏が再興された暁には、金子仁枚進上することを約束する。	No.2406佐八 文書

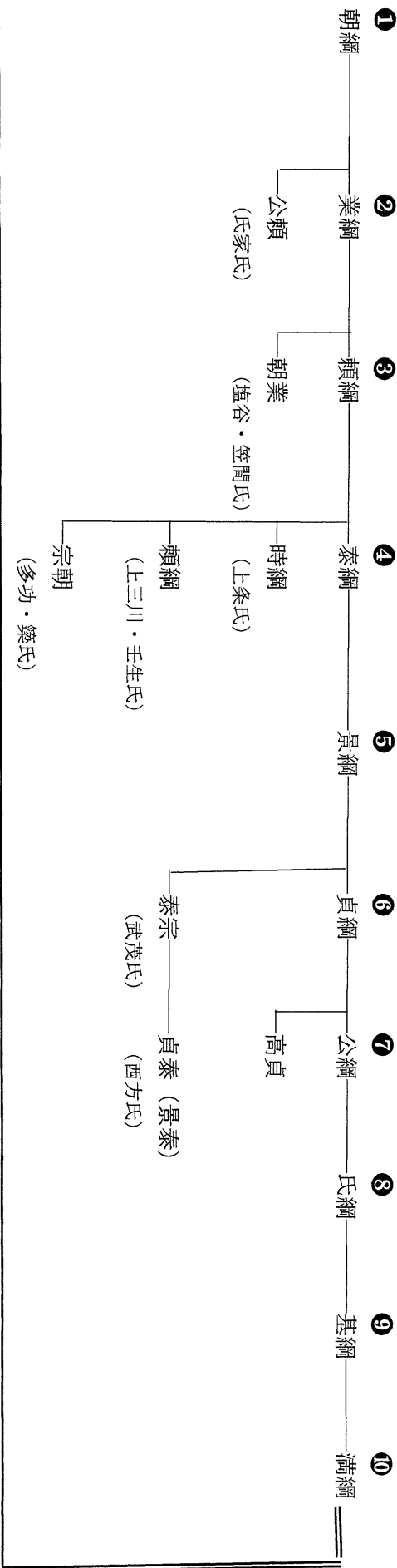
(注)『戦国遺文』下野編第一巻～第三巻などより作成。

図 1 戦国・豊臣期の芳賀氏略系図 (番号は当主就任順)



※二重線は養子関係を示す。
(芳賀氏関係諸系図及び中世文書より作成)

図2 下野宇都宮氏略系図 (番号は当主就任順)



(江田郁夫「宇都宮家中の成立と展開」＜江田『戦国大名宇都宮氏と家中』所収、岩田書院、2014年＞より作成)

(芳賀氏) ※二重線は養子関係を示す。